

第1回小平市第三次長期総合計画・前期基本計画検討懇談会 要旨

開催日時	平成17年9月14日(水)14時00分から 16時30分まで
開催場所	小平市役所3階301会議室
出席者	佐野会長、服部副会長、浅見委員、宇都宮委員、海上委員、神石委員、剣持委員、小林委員、佐藤委員、篠崎委員、鈴木委員、立花委員、谷委員、鳥井委員、森杉委員 15名) [小川委員、加藤委員 欠席2名] (理事者)松岡助役 あいさつのみ (事務局)昼間理事、水口参事、橘田副参事 (傍聴者 4名)
会議次第	1.開会 2.依頼状交付 3.助役あいさつ 小平市助役 松岡芳夫 4.会長及び副会長あいさつ 5.検討懇談会運営事項確認について 6.小平市第三次長期総合計画・前期基本計画(素案)について 7.質疑応答 8.その他 9.閉会
配付資料	(1)「小平市第三次長期総合計画・前期基本計画(素案)」 (資料1) (2)「小平市第三次長期総合計画・前期基本計画検討懇談会名簿」(資料2) (3)「小平市第三次長期総合計画・前期基本計画検討懇談会設置要綱」 (資料3) (4)(仮称)こだいら21世紀構想 小平市第三次長期総合計画基本構想・前期基本計画体系(案) (追加資料)
委員 事務局	現在、「前期基本計画」について、検討懇談会に対して意見を求められているが、先の話になるが、「後期基本計画」はいつから考えるのか。「前期基本計画」との関連を知りたい。「後期基本計画」は「前期基本計画」を補完する性格のものなのか。「前期基本計画」との位置づけを知りたいので何か資料を提示してほしい。 「前期基本計画」は10年間、「後期基本計画」はその後の5年間で、その上に位置する、今回の策定する新しい基本構想は、向こう15年間の市の方針を決めるものである。当然、後期基本計画では、前期基本計画でできなかった事業について考えることにもなるが、「前期基本計画」の期間中で想定し得なかった新たな課題についても「後期基本計画」の対象となる。作業的には現在の作業と同様の過程を考えている。また、全体の骨格はあまり変わらないと考えている。資料は第3回の審議会でも提示したものと同一ものにな

会 長	るが、参考までに配付するがよろしいか。
副会長	了承する。各委員の同意を得たので配付をお願いしたい。
事務局	この「前期基本計画」は誰をターゲットにしているのか。市職員または市議会議員それとも市民なのか、教えてほしい。いままで審議してきた「基本構想」はとてもやわらかい口調で書かれていたが、この「前期基本計画」は、ちょっと難しい感じがするが誰に読んでほしいのか。
委 員	対象は市民であり行政である。行政計画として、「実施計画」のもとになるものでもある。策定に際しても市民に対して、また、行政内部に対しても、その両方を対象に策定を行っている。
事務局	地域センターについて伺いたいが、上水南地区には、地域センターを建設する予定はないのか。公民館も古いのでどのように考えているのか。この地域は、隣接する国分寺市が生活圈となってしまう、なかなか地元での活動がしにくい状況だ。
委 員	地域センターの建設の予定については、まだ確定していない部分もあり具体的な話は難しいが、今の時点では小川町二丁目地区と小川町一丁目区画整理地区内を考えている。
委 員	地域を考えるなら、コミュニティバスも、にぎやかなところばかりでなく、様々な意見を取り入れるべきではないか。
事務局	「実施計画」についても、検討懇談会で詳しく議論していくか。
委 員	「実施計画」は、各担当課と調整し、策定していく予定だ。
委 員	「実施計画」の話をされたが、行政からだけの案での策定はだめだと思う。地域の課題として、具体的に必要なものや優先順位の高いものがあるはずだと思う。地域の特性や足りない部分を表した地図があると助かる。市の全体像を表したものや必要な事業の濃淡を表したものなどが知りたい。市民の考えていることを知るためのしかけづくりや地域住民の話し合いの場がほしい。
事務局	地域の特性だけでなく、地域間のバランスがほしい。市民がどうかかわっていくのか、知りたいことについて働きかけていくことが大切だと思う。分野別の課題の提示や住民がそれにたいしてどのように関係するのか考える必要がある。
委 員	市全体の施設等を記載した地図はあるが、地域特性を表した地図は、作成していない。
事務局	現在、「基本構想」・「基本計画」・「実施計画」の3つの階層がある。「基本計画」は、「基本構想」に照らし合わせて、どんな事業ができるのかを示し、「実施計画」ではさらに具体的な事業を示していくので、課題はある程度バランス良く入れ込んでいけると思う。また、実際に事業に携わっている担当

	<p>課は、実施計画を考える上で実情を知っているのが、当然、地域課題も把握している。</p>
委員	<p>P.39「高齢者福祉」で「尊厳ある終末」のことが書かれているが、行政がここまで踏み込む必要があるのか。宗教や個人の価値観もあるのでどのように考えるのか。</p>
事務局	<p>事業としては、市民全体の共通の課題の提示をしていくほうが望ましい。それから緑視率という言葉が書かれているが、そういう言葉があり実際使われているのか。また、地震対策に関して、この地域は立川断層があるが、その中での対策や災害弱者に対する支援策、帰宅困難者への対策をどう考えるのか。</p>
委員	<p>緑視率という言葉は、一般的に使われている。</p>
委員	<p>防災の避難地図は市の防災計画で作成されている。</p>
委員	<p>今、子供のしつけについて、様々な疑問と不安を持っている。お母さんたちが自転車で子供を乗せて歩道を走っているが、道を譲ってあげても、「ありがとう」の一言さえ言わないし、赤信号でも子供の前でも堂々と渡っていく大人が目につく。そろそろ、大人の教育や子供に対するしつけを、こうした「計画書」に記述していかないといけない時期に来ているようだ。</p>
委員	<p>「基本構想」がわかりやすく書かれていただけに、今度の「前期基本計画」は、読みにくくわかりづらい。だんだん図やイラストも入って読みやすくなることを期待する。</p>
委員	<p>バックデータのようなものがあつた上での意見交換がしたい。一読してみたが一部「動向（現状）」、「今後の課題」、「基本方針」のそれぞれが対応していないところが見受けられる。リーディングプロジェクトのようなものが必要だと感じている。たとえば「緑」とか「国際交流」とか、そういった柱になるものがほしい。それから「交通網」の書きぶりが、少し弱いように感じる。</p>
委員	<p>やはり地域力のアップのようなものが必要だ。しつけの問題も普段から痛感している。P.27「地球環境への配慮」の「動向（現状）」(3)の文章のつながりがおかしい。</p>
委員	<p>P.39「高齢者福祉」の「尊厳ある終末」の対応は難しいと思う。 小平市には、心神喪失などで重大な他害行為を行った人の医療を行う施設として、国立精神・神経センターがその役割を担うようになったが、そのことに対して、何か地域への対策はしているのか。</p>
委員	<p>教育の分野で P.48（中分類）第3節「学力の向上と地域の連携を実現する（教育）」、「小・中学校」で自分の子供に照らして考えると、授業時間が足りない中で様々な工夫がされているようだが、どうも実際の教育に携わっ</p>

副会長	<p>ている人の声が反映されていないような気がする。</p> <p>財源が不足している中で、たとえば市民に財源をつくってもらう方法も考えたらどうか。市民からお金を出してもらうようなしくみ、たとえば公募債のようなしくみをつくったら良いと思う。</p> <p>これからは職員も市民も専門分野に関する知識を醸成したり、地域における人材育成を計画的にして、能力を提供できるようなしくみをつくっていくことが必要だと思う。そのための情報提供も必要だ。</p>
委員	<p>国立精神・神経センターは、一般の病院より安全対策がとられていると理解している。</p> <p>市民の基本健康診査については今後受益者負担の考えもありうると思う。</p>
事務局	<p>「尊厳ある終末」や「地震の活断層」「帰宅困難者」「親の教育」など様々なご意見をいただいた。「小・中学校」の部分については教育委員会で対応する部分も出てくると思う。</p> <p>今後は視覚的に、地図や図表を用いて、「第三次長期総合計画・前期基本計画」を作成していく。また、柱になるような施策やリーディングプロジェクトのようなものも考えていく必要があると思う。</p> <p>財源不足については、大胆な構造改革が必要と思われる。</p> <p>情報の公開のあり方について、工夫し正確でわかりやすいものとしていきたい。</p> <p>市内、各地域の特性について、それぞれの分野があると思うが、できるだけ次回、何らかの形で提示したい。</p>

(文責：事務局)